

## 第3学年2組 保健体育科学習指導案

日 時：平成30年11月22日（木）第3校時  
指 導 者：天草市立稜南中学校 教諭 梅北 勇樹  
G T：天草郡市バドミントン協会 堤内 公人  
場 所：有明体育館

### 1 単元名 E 球技「バドミントン」

### 2 単元について

#### (1) 単元観

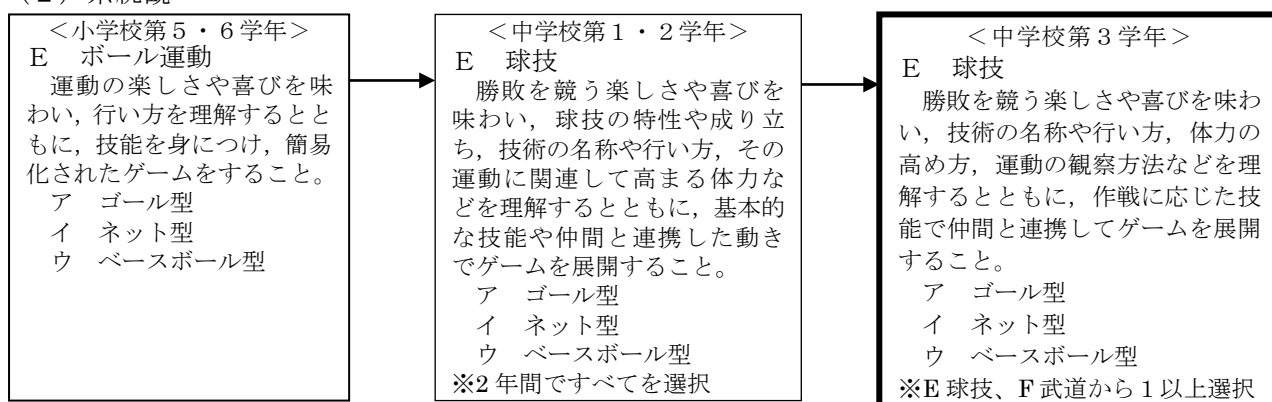
本単元は、中学校学習指導要領（体育分野）の内容E「球技」を受けて設定したものである。

バドミントンは、ネット型に属し、個人やペアの能力に応じた作戦を立て、1対1又は2対2で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。そのため、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能を用いて個人又はペアでゲームを展開できるようにすることが求められる。

本単元では、第1学年及び第2学年の基本的な技能を用いた個人でゲームを展開することをねらいとした学習を受けて、作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを用いて個人又はペアでゲームを展開することを学習のねらいとする。

したがって、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、学習に自主的に取り組み、フェアなプレイを大切にすること、自己の責任を果たすことや作戦などについての話し合いに貢献することなどに意欲を持ち、健康や安全を確保すること、運動観察の方法などを理解し、対戦相手を踏まえて、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することが大切である。

#### (2) 系統観



#### (3) 生徒観（※生徒に行ったアンケートの結果については別紙参照）

本学級は男子15名、女子15名の計30名が在籍している。普段から男女の仲は良く、素直で、学校行事等に積極的に取り組むことができる。日常の授業でも、話し合い活動になるとお互いに意見交換したり教え合ったりすることができる。保健体育の授業も意欲的に取り組む生徒が多い。ただし、事前に行ったアンケート①では、「運動や体育の授業が好きではない」と答えた生徒が全体の3分の1いる。これはアンケート②の運動有能感の調査「身体的有能さの認知」にも反映されており、運動全般が苦手である、或いは最初の段階で出来ないと考えている生徒もいる。バドミントンの学習は、1年生の時から継続して行ってきた。多くの生徒が気軽に楽しめる運動として捉え、他の種目よりも積極的に取り組んでいる。また、2年生ではG Tを活用したことで生徒たちの意欲がさらに高まり、二人体制の指導によって多くの生徒が基本的な技能を確実に習得できた。しかし、数名の女子生徒は基本的な技能が定着しておらず、技能に自信が持てないでいる。アンケート③は、2年間の既習事項における知識の定着度合いを示したものである。各ストロークの軌道や打ち方についてはおおよ理解しているが、ルールを正確に理解していると答えた生徒は少なかった。理由としてダブルスにおけるサーブの順番の複雑さやシングルスとダブルスでのサーブエリアについて戸惑うと答えている。

#### (4) 指導観

①指導にあたっては、天草郡市中体研の研究主題を受け以下のことに留意したい。

天草郡市中学校体育研究会 研究主題

自ら運動の喜びや楽しさを求め、生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ保健・体育学習の在り方  
～ 学びに向かう力を高める授業の在り方を通して ～

#### 研究の仮説

運動有能感を高める指導方略を生徒の実態に応じて効果的に用いた授業を展開すれば、運動への内発的動機付けが高まり、自ら運動に親しみ、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって健やかな心と体をはぐくむ資質や能力が身に付くであろう。

#### 研究の視点1【できる楽しさ（身体的有能さの認知）】⇒「ここまでではできる」と感じる手立て

- 習得した技能を活かすために、ルールを工夫したタスクゲームを行い、成功体験を増やし、自信をつけさせる。
- 身体的有能さの認知を高めるために、G Tによる個別の支援や補充学習を行い、技術の向上や課題の改善を図る。
- 技術の伸びを把握させるために、授業の最後にチームで話し合い活動を取り入れて相互評価や他者評価を行い、それを基に自己評価で達成度や新たな課題を確認させる。

#### 研究の視点2【のびる楽しさ（統制感）】⇒「努力すればできるようになる」と感じる手立て

- 難しい技能を習得させるために、段階的な練習や反復練習を行い、技能の定着を図る。
- 技能の習得を目指したり課題解決学習を充実させたりするために、ICT機器を活用する。また、i ボード（アイデアボード）を活用して思考を可視化し、話し合い活動を充実させる。

#### 研究の視点3【かかわる楽しさ（受容感）】⇒「受け入れられている」と感じる手立て

- 「する・見る・支える・知る」といった役割を理解し、責任を持って取り組ませる。そのために、バドミントンの特性やルール、技能のポイントなど知識の定着をしっかりと行う。リーダー性や技能面、受容感等を総括して検討し、グループ編成をする。
- 肯定的な雰囲気での授業を行うために、チーム内やチーム間での教え合いの時間を確保したり、MVPの選出をしたりする。

#### その他の手立て、授業改善の視点

- 生徒が主体的に考えて取り組むことができるようになるために、1単位時間の授業の進め方を形式化して、見通しを持たせやすくする。(UDの視点)
- 学習内容の定着を図り、学習の見通しを持たせるために、学習のめあてや流れを学習カードに掲載する。
- 技能の定着やルールの理解ができていない生徒のために、授業中に個別指導を行い、技能や知識の定着を図る。
- 運動量の確保やバドミントンに必要な体力の向上のために、導入やゲームの内容を工夫する。

#### ②人権が尊重される授業づくりの視点

チームでの活動を通して技能ポイントをお互いにアドバイスしたり、練習やゲームでの役割を分担したりして、よりよく活動できる場を設定する。(仲間づくり)

学習を通して、巧緻性、敏捷性、スピード、筋持久力などの体力の強化を図り、総合的な体力向上につなげる。また、体力の高め方も理解する。(健康な体力づくり)

学習を通して、仲間や相手の違いに応じたプレイを大切にしたり、フェアなプレイを大切にしようとしたりするように、言語活動の場や振り返りの場を設定する。(公正な態度)

#### ③道徳との関連

運動における協働の経験を通して、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心を持って謙虚に学び、自らを高めていくこと。(内容項目B - (9))

### 3 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームが展開できるようにすること。また、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができるようにすること。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見して、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫すること。
- (3) 自主的に取り組むこと、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話合いに貢献しようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事、健康・安全を確保すること。

### 4 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
①バドミントンの学習に取り組もうとしている。	①仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法について指摘している。	①正確にシャトルをとらえ、コントロールすることができる。	①バドミントンに関連した体力の高め方、技術の名称や行い方について理解している。
②自己の役割を果たしたり、仲間とお互いに助け合ったり、教え合ったりしている。	②チームや相手に応じるために、選んだ作戦を基に得点に結びつけるための効果的な攻撃方法を考えることができる。	②狙った場所や空いている場所に打つことができる。	②ゲームや審判の方法について理解している。
③作戦などについての話合いに貢献しようとしている。		③相手の動きを崩したり、攻撃に繋がる高さや位置に返球したりすることができる。	③運動観察の方法について、理解したことを言ったり、書き出したりしている。

### 5 単元の指導計画及び評価計画（10時間取り扱い：本時8／10時）

	1	2	3	4	5	6	7	8(本時)	9	10	
学習活動	集合・あいさつ・健康観察・ウォーミングアップ										
	目標の確認 ※本時における到達目標をイメージする										
	オリエンテーション	各ストロークやフットワークの確認	サービス練習	スマッシュ練習	オーバーストロークから3種類の打ち分け	ゲームにおけるルールやフォーメーションの確認	ゲームでのフォーメーションや作戦の確認①	課題解決に向けた教え合い学習①	ゲームでのフォーメーションや作戦の確認②	ゲームⅢ	ゲームⅤ
		サービス練習タスクゲーム	スマッシュ練習タスクゲーム	オーバーストロークから3種類の打ち分け	ネット際でのショット練習タスクゲーム	チームにあったフォーメーションの決定	ゲームⅠ自己やチームの弱点や課題を確認①	ゲームⅡ課題解決に向けた教え合い学習②	ゲームⅣ自己やチームの弱点や課題を確認②	ゲームⅥ	
本時の振り返り・まとめ											
関心・意欲・態度	①観察学習シート							②観察		③観察	
思考・判断				①観察学習シート					②観察学習シート		
技能		①観察	②観察		③観察						
知識・理解	①観察学習シート					②観察学習シート	③観察学習シート				

6 本時の学習

(1) 本時の目標

個人やチームの課題の解決に向けて、助け合ったり、教え合ったりしている。(関心・意欲・態度)

(2) 本時の展開

過程 (時間)	形態	学習活動【言語活動】	予想される生徒の反応 ○(十分) △(不十分)	指導上の留意点・評価		備考
				T	GT	
つ か む  (12)	一 斉	1 挨拶・健康観察 2 準備運動		【能動型学習】ポイント ・ランニング中の運動においては、基本的には生徒が考えたものを尊重する。 ・ステーションプログラムにおいても、生徒の取り組みに声援を送り、配慮が必要な生徒には、各プログラムの意図を伝えて、体力の高め方を知らせる。	GT	CD タイマー  学習シート iボード
		3 前時の感想と本時の練習を発表する。 4 本時のめあてを確認する。				
個人やチームの課題解決に向けて、仲間と助け合ったり、教え合ったりしよう。						
			△前時を振り返ることができない。 △本時のめあてが理解できない。	・めあての達成がチームのレベルアップに繋がることを伝え、助けたり、伝えたりすることはどういうことか助言をし、個人やチームの課題解決に努めるように促す。		
さ ぐ る  (13)	個 ペア チーム	5 個人練習(4分)及びチーム練習(8分)を行う。 (1) 個人が課題とするショットを指定された場所で練習する。 (2) チームに戻って、前時に考えた練習を行う。	○積極的に練習に取り組んだり、仲間にアドバイスしたりしている。  △練習に消極的だったり、何もアドバイス出来なかったりする。	【評価】(関心・意欲・態度) 自己の役割を果たしたり、仲間とお互いに助け合ったり教え合ったりしている。 <観察>  【徹底指導】ポイント ・各チームのリーダーと練習場所や練習方法について確認する。  【能動型学習】ポイント ・各チームが考えた練習を認めながら、課題解決に繋がっているかを確認したり、細かい技能を助言したりする。		【評価】 iボード
ふ か め る  (16)	ペア チーム	6 ゲームを行う。 *3分の4セットマッチで行う。 *勝敗は4セットまでの総合得点で決定する。 *2セット終了後、作戦タイム2分間を設ける。  【言語活動】設定の意図 ・意見交換することでゲーム中の自己やチームの課題に対する達成度に気づいたり、新たな課題の発見に繋がったりする。	○練習したことが得点になってうれしい。 △思うようにいかない。悔しい。  ○作戦タイム中に、仲間にアドバイスしたり、作戦を提案したりする。	【徹底指導】ポイント ・フェアプレイを心がけ、それぞれの試合において「する」、「見る・支える」の立場を責任持って取り組むように助言する。  【能動型学習】ポイント ・ゲームを行いながら、課題を解決させたり、新たな課題を発見したりする。 ・試合をしない生徒は、審判や記録者として試合を支えたり応援したりする。		【評価】 記録用紙
ま と め る  (9)	一 斉	7 振り返りを行う。 (1) 各チームでダウンをしながらゲームを振り返る。 (2) 振り返りを書く。 (3) 代表者が振り返りを発表する。 (4) GTや教師の話聞く。	○めあてに対しての自分の取り組みを振り返ったり、仲間の取り組みを評価したりする。	・身体的有能さの認知や受容感の数値が低い生徒の考えをしっかりと把握する。 ・作戦タイムやゲーム中の生徒の様子や変化を紹介する。 ・次回の内容を伝え、生徒の興味関心を引き出す。		・今日のめあてを振り返り、気づきや感想を伝える。